兵庫教育大学広報誌
http://www.hyogo-u.ac.jp

教育子午線

Kyoiku-Shigosen
October, 2009
vol.21

兵庫教育大学

◎研究レポート
名須川知子
地域における
幼稚園の有効な
子育て支援に
関する研究

◎キャンパス通信
◎うれしの交差点

◎教育最前線
小学校の「外国語活動」が必修に
中学校、高校の
英語授業にも変化が

巻頭言
Message

梶田叡一（かじたえいいち）
学長

〈いのち〉の教育を考える

兵庫県内の学校においては、阪神・淡路大震災をきっかけに、県教委の熱心な指導もあり、〈いのち〉の教育の取り組みが広く見られます。こうした取り組みは、いよいよ全国的な教育課題としてクローズアップされる時期を迎えようとしています。

新しい教育基本法にも学校教育法にも、生命や自然を尊重する精神を養うことが目標として挙げられています。改訂された学習指導要領においては、特に道徳教育に関連して、小・中学校ともに「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし…」ということがうたわれています。

こうした〈いのち〉の教育が強調されるのは、いったいなぜなのでしょうか。〈いのち〉の教育の基本的なレゾン・デートル（存在理由）を、私たちはどのように考えておくべきなのでしょうか。

まず第1は、〈いのち〉を粗末にする悲しむべき風潮が現実に日本社会に存在するということです。最も直接的な形では、自殺、殺人、そして妊娠中絶です。これらは日常的に数多く生じています。〈いのち〉のかけがえのなさを理解し、自他の生命を尊重する精神を養わねばならないのは、まずもってこのためです。生命倫理と、それに基づく人権思想の領域が、この重要な基盤を提供してくれるのではないでしょうか。

第2は、人として最も本質的な自己認識の課題として〈いのち〉という現象について理解を深め、それを基盤に自分自身の生き方の基本を考えるということです。ここで特に重要なのは、〈いのち〉を相互依存的なものとして見る水平的な（横に広がった）視座であり、また世代をつなげて連綿と続いているものとして見る垂直的な（縦の連続性を持つ）視座です。一つの〈いのち〉といえども、他の〈いのち〉から切り離され孤立したものではありえないのです。

第3は、〈いのち〉の教育を通じて、〈いのち〉を慈しみ、〈いのち〉の尊厳を基本とし、それぞれの〈いのち〉の最大限の開花を図る真の「共生社会」「自己実現社会」を実現するということです。このための認識と価値観を、一人一人の実感、納得、本音に根差した形で形成していくことが、今こそ必要不可欠ではないでしょうか。

教育子午線 Kyoiku-Shigosen October, 2009 vol.21

兵庫教育大学の動き 2009年 6月→9月

↑附属幼稚園「わくわくキャンプ」

↑加東市夏まつり

↑教員免許状更新講習

Campus Topics

6月

13日	◎大学院説明会（神戸地区、福岡地区）
15日・16日	◎学校管理職・教育行政職特別研修（第1期）
20日	◎大学院説明会（岡山地区）
22日・23日	◎学校管理職・教育行政職特別研修（第2期）
27日	◎大学院説明会（神戸地区） ◎教職大学院公開授業

7月

4日	◎大学院説明会（大阪地区、東京地区）
9日・10日	◎附属幼稚園「わくわくキャンプ」
11日	◎大学院説明会（神戸地区）
17日	◎附属幼稚園・小学校・中学校第1学期終業式
19日	◎学校教育学部オープンキャンパス
19日～21日	◎附属小学校6年生臨海合宿

8月

3日～12月27日	◎兵庫教育大学教員免許状更新講習（必修領域12講習、選択領域75講習）
5日	◎加東市夏まつり（外国人留学生が参加）
24日・25日	◎公開講座「図画工作科教材開発塾」（全2回）
29日、11月7日・22日	◎公開講座「和文化体験講座ー親子によるそばの栽培から手打ちまでの食文化体験ー」（全3回）

9月

1日	◎附属幼稚園・小学校・中学校第2学期始業式
1日・2日	◎附属小学校4年生自然学校
5日	◎公開講座「言語習得ー人はどのようにことばを学ぶかー」
5日～13日	◎公開講座「絵画制作」（全4回）
13日	◎附属中学校体育祭
15日～11月17日	◎ひょうご講座「有害物質が引き起こす環境問題ー化学物質が人間にもたらす恩恵の陰でー」（全8回）

目次 Contents

04 教育最前線 小学校の「外国語活動」が必修に 中学校、高校の英語授業にも変化が
06 担当教員の外国語教育に対する期待と不安
08 研究レポート 地域における幼稚園の有効な子育て支援に関する研究 名須川知子（基礎教育学系教授）
09 教育時事一問一答
09 教員の著書紹介
10 私たちの先生 前芝武史准教授（体育・芸術教育学系）
11 同窓生からの手紙
12 キャンパス通信
14 うれしの交差点 サッカーチーム「メイファーズ」に密着！ 発達障害や不登校の児童生徒とサッカーでコミュニケーション
16 兵庫教育大学からのお知らせ

◎表紙

「モノオモイ」
山本将之さん作（学校教育学部芸術系コース4年）
2009年 40cm×40cm×80cm 石膏
第55回全関西美術展彫刻部門入選

小学校の「外国語活動」が必修に 中学校、高校の英語授業にも変化が

山岡俊比古（やまおかとしひこ）
社会・言語教育学系教授

平成23（2011）年度から新しい学習指導要領の施行に伴い、小学校5、6年で週1時間の外国語（英語）活動が始まり、中学校では英語の時間数が週3時間から4時間に増えます。小学校の外国語活動を受けて、中学校の英語教育はどのように展開するのでしょうか。高校では25（2013）年度から、英語の科目名が大幅に変わり、授業は基本的に英語で行うことになります。

教員の語学力が課題 研修の不十分さは否めず

昭和61（1986）年の臨時教育審議会第二次答申に端を発する小学校での英語教育に関する議論は、平成14（2002）年度から総合的な学習の時間において、国際理解の一環として外国語会話を実施するという形で決着しました。現在、ほぼすべての小学校で実施されていますが、対象学年、時間数、目的、指導方法などは学校によって異なります。

このような現状を踏まえ、教育の機会均等と標準化を図る必要性から、5、6年生の必修として外国語活動を実施することとなりました。

学習指導要領では外国語活動の目標を「コミュニケーション能力の素地を養う」とし、次の3本柱を掲げています。

①言語や文化について体験的理解を深める。

②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

3本柱を達成するため、児童には教材として「英語ノート」が配布されます。

外国語活動を実施するにあたり、最大の課題と問題は教員の英語力です。23（2011）年度の全面実施までに教員の研修計画も十分ではなく、おそらくぶっつけ本番になるでしょう。

小学校の英語活動の内容を把握しておくべき

平成24（2012）年度から、中学校の英語授業は週3時間から10年ぶりに4時間に戻りますが、週4時間の授業を経験している教員は少なくないでしょう。しかし、小学校で一律的に外国語活動を体験した新入生を迎えるのは初めてのことです。先行的に外国語活動を実施している小学校から入ってきた生徒を指導したことのある教員は、発音の修正に苦労すると指摘しています。

なによりも、小学校での体験中心の学習活動に慣れた（場合によっては飽き飽きした）状態で入学してくる

⬅文部科学省が作成した「英語ノート」。小学校5、6年の2年間で2冊を使います

⬇兵庫教育大学では今年8月、教員免許状更新講習の一つとして、小学校教員を対象に「英語活動の実践」を開講しました

生徒の導き方については、十分に考える必要があります。その際の考察の軸としては次が挙げられます。

①小学校での外国語活動は英語学習の観点からはどうであるのか。

②中学生の思考様式は小学生の時から様変わりしている。

①については、小学校の外国語活動は中学校の英語学習の先取りではないといわれていますが、少なくとも小学生自身は英語の学習だととらえているでしょうし、むしろそうでなければいけないと私は考えます。ならば、英語教員は小学校での学習の内容を確認しておくべきでしょう。

②については、小学5、6年生は抽象的思考様式への移行期で、中学生はその思考様式の完成期だということを認識する必要があります。

英語だけの授業には弊害も 時には日本語で解説を

平成25（2013）年度から学年進行で実施される高校の新学習指導要領では、「授業は英語で行う」ことの目的と注意事項を明確に示しています。

英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。（第2章、第8節、第3款、4）

昭和54（1979）年に「話せない英語教師」（福田昇八著、サイマル出版会）という本が刊行されました。この本は英語を話せない英語教員がいると嘆いているのではなく、英語教員は英語を話せないという全般的な事実を指摘したものです。著者は「生きた言葉として英語を教える」ことが大切で、英語教員が英語を話せるようになることが必要だと力説しています。

その後、ALT（外国語指導助手）の導入などにより、英語教員の話す力は全般的に向上したといえます。それを受けて、今回の改訂になったと判断できます。しかし、授業の最重要点は学習の成立であり、英語の使用によってこれが妨げられる場合には、日本語を使うという常識も必要です。英語だけで授業を進めることで生徒の理解や学習が中途半端になってしまったのでは本末転倒であり、生徒は授業から離れてしまいます。

大学院修士課程に「小学校英語活動指導者プログラム」を開設

平成23（2011）年度から小学校の外国語活動が必修になるのを見据えて、兵庫教育大学大学院では22（2010）年度から修士課程の昼間クラス生を対象に「小学校英語活動指導者プログラム」を開設。外国語活動に関する知識と実践力を身に付けた教員の養成に取り組みます。

プログラムの特徴

◎外国語活動に関する知識やスキルを学び、英語のコミュニケーション力の向上をめざします。
◎2年次には「英語活動インターンシップ」（仮称）を通して、授業実践や実践のサポートを体験します。

対象学生

修士課程の学生で、現職教員または小学校教員免許状を有する者

受講者数

15人程度（入学後に面接と試験を行い、受講者を決定します）

履修方法

開講予定科目から所定の10単位以上を修得します。

◎開講予定科目 ※すべて仮称

▶選択必修科目
英語活動授業研究
英語活動教材・メディア研究
小学校英語教育論
小学校英語教育論演習
▶必修科目
授業実践英語演習
英語活動インターンシップ

開講予定科目は変更する場合があります。所定の単位を修得した受講生には、プログラムの履修証明書を授与します。

担当教員の外国語教育に対する

今回の学習指導要領の改訂によって、小学5年生から高校3年生までの8年間、外国語教育が実施されることになりました。小学校で本格的に外国語活動が始まることを受け、中学校や高校の指導内容も変わり、体系的な学びが実現するのでしょうか。平成23(2011)年度以降の施行を前に、小中高の担当教員はそれぞれに期待や不安を抱いているようです。

小学校

学級担任としての利点が外国語活動にも生きる

宇高(うたか)まゆみさん
多可町立中町北小学校教諭
平成19(2007)年3月、
大学院修士課程
総合学習系コース修了

小学校では外国語活動が始まるにあたり、さまざまな課題や不安を抱えています。なによりも、カリキュラムの開発や教材・教具の作成、効果的な指導方法についてです。学級担任には授業を進められる力や「Classroom English(教室で使える英語表現集)」を活用する力、外国人や日本人の英語講師とチームティーチングをするためのコミュニケーション力も必要とされます。

また、評価の方法や中学校との連携についても考えなければなりません。事前の研究や研修が必要ですが、十分な時間を確保できるかどうかも不安なところです。

これらの課題解決に向け、文部科学省は5、6年生の共通教材として「英語ノート」を作成し、各校に音声教材のCDや指導資料などを配布しました。さらに中核教員研修会なども開かれるようになりました。

私が勤務する多可町では、以前から英語活動に取り組んでおり、町内7小学校の担当教員が共同でカリキュラムの開発や教材・教具の作成をしています。また、英語ノートを使った授業研究や指導方法の向上を図るための実技研修、講師を招いての研修会を開いたり、研修会に参加したりしてきました。指導者に関しては町教育委員会により日本人英語講師の採用や中学校のALT(外国語指導助手)の小学校への派遣が計画的に行われてきました。

課題や不安は尽きませんが、学級担任には教科指導で身に付けてきた知識や技術があり、児童の興味や関心をよく知っているという利点があります。これらを大いに生かして、子どもの心を引き付け、ねらいとする力をつけられる外国語活動を推進できるだろうと確信しています。

➡外国人講師に日本文化を紹介。児童たちは英単語も織り交ぜながら、あやとりを伝えました

中学校

小学校の経験を生かすには小中の連携が鍵を握る

新学習指導要領では、小学校の外国語活動の目標は「体験によって外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと」とあり、中学校の英語の目標は「聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの基礎的な力をつけること」です。今回の変革にあたり、「小学校で外国語活動が始まったところで、高校入試があるから中学校は変わらない」という現場の声も

川上(かわかみ)典子(のりこ)さん
大学院修士課程
言語系(英語)コース2年
(現職中学校教諭)

期待と不安

高校

日本人英語教員が生徒の理想的なモデルに

梶昌彦（かじ まさ ひこ）さん
大学院修士課程
言語系（英語）コース2年
（現職高校教諭）

新学習指導要領に「授業は英語で」という文言が明記されました。英語教育重点校（セルハイ）指定校から工業高校まで、さまざまな高校の教壇に立ってきた私は複雑な思いで受け止めました。

英語が好きな子もいれば嫌いな子もいます。本当にすべての高校で「授業は英語で」が実現するのでしょうか。私を含め、教員は少なからず不安を抱いているはずです。生徒の心が動かなければ英語によるコミュニケーションは生まれないからです。その不安解消のよりどころを、私は「授業は英語で」の記述の前後の文言に求めたいです。すなわち「生徒の理解の程度に応じた英語を用いる」⇩「英語に触れる機会を充実する」⇩「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」という流れを大切にしたいと考えます。そして生徒一人一人にそれぞれの英語のゴールがあることも忘れないようにしたいです。英語で日常のあいさつができる生徒もいれば、プレゼンができる生徒もいます。「英語が使える日本人」のレベルは十人十色であることを肝に銘じなければなりません。そして、外国人講師ではなく、日本人の英語教員こそが生徒にとって理想的なモデルであると考えて授業に臨みたいです。それが「授業は英語で」における私たち教員の目標であると考えます。

高校の英語授業に求められるものはそれだけではありません。学習指導要領の改訂で週の授業時間数が標準を超えることが認められ、多くの高校で時間数の増加が予想されます。また、教える単語、文法の種類も増えます。「授業は英語で」はこれらの課題も乗り越えなければならないのです。

英語教員として、個人の総合的な力量をさらに引き上げる必要があります。そのうえで同僚教員と連携して授業を効果的に進める努力をしなければなりません。常に生徒たちの心を、表情を見つめながら「本物の英語力」を育てたいです。

➡一昨年の姫路市立夢前中学校の文化祭。顧問を務めていた英語部は「白雪姫」の英語劇を熱演しました。今後はより中身の濃い活動ができると期待しています

⬅昨年3月の「英語が使える日本人」の育成のためのフォーラム2008で、現任校の神戸市立葺合高校がセルハイ校を代表して模擬授業を行いました

ありますが、変革後に入学してくる生徒がいれば、必然的に中学校の授業は変わってくるでしょう。

変化を積極的に活用しない手はありません。例えば小学校で外国語活動を体験している生徒たちは、英語の音やリズムに慣れ、コミュニケーションに対する抵抗感も少ないと期待され、中学校ではさらにバージョンアップした活動が可能になるでしょう。1年生でウオームアップに使っていた時間を書く練習に回せるかもしれません。

外国語活動を経験した新入生を迎えるにあたって、これから中学校に求められるのは小学校との緊密な連携だと思います。小学校で音声として慣れ親しんだ英語に、文字や文法の知識をうまく導入して、中学校の外国語学習とののりしろの部分をしっかりとくっつけること、小中を通してコミュニケーション活動をスパイラルに何度も積み上げる連携が求められます。また、校区の小学校の外国語活動がどのようなものになるかは未知なので、引き継ぐ立場の中学校の教員は不安があります。発音指導は大丈夫か、生徒の興味・関心に大きな差ができているのではないか、小学校間で温度差があるのではないか…。

これらの不安を解消するためにも小中連携が鍵になると思います。小学校の授業を見学したり、小学校教員と問題を共有し話し合うことで、それぞれの地域で中学校の授業に求められるものが見えてくるのではないでしょうか。

このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金を受けた研究を紹介します。科学研究費補助金とは、すべての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は1人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は2～4年です。

研究レポート

Report of Research

名須川知子（なすかわともこ）
基礎教育学系教授

地域における幼稚園の有効な子育て支援に関する研究

（平成21～23年度科学研究費補助金・基盤研究に採択）

現在、自治体による「子育て支援」が多くみられますが、地域においては幼稚園が果たす未就園児の子育て支援機能も注目されています。それは、幼稚園が子育ての専門家集団であり、地域に根差した就学前の教育機関として期待されているからです。つまり、未就園児の保護者のニーズに応える子育て支援としての「親と子の育ちの場」の役割や機能をより発揮できるよう、さらなる幼稚園運営の弾力化が求められているといえます。

⬆附属幼稚園に集まった未就園児とその母親たち。幼稚園が子育て支援で果たす役割は大きいです

➡附属幼稚園で取り組んだ「親育てプログラム」の報告書

⬆親子でダンスを楽しみました（子育てひろばより）

一方、現在の子育てをめぐる地域の状況は「子育てしにくい」ものとなっています。少子化による子ども同士のコミュニケーションの問題、都市化による遊び場の減少など、子どもをめぐる安全性に問題があるからです。そのような中、すこやかな子どもを育てることをめざして、幼児教育の理念を幼稚園の中だけでとどめるのではなく、周辺地域にも広げていくことが大切な時代になっています。

子育ての不安は、働いている母親よりも専業主婦の方が多いといわれています。周囲の人とあまり話すことのない母親が抱えている問題は、乳幼児にも深刻な影響を与えます。そのような点からも、公的な幼児の育ちにふさわしい場として、地域の幼稚園が子育て支援センターとしての機能を果たすのは意味のあることです。具体的な機能としては、「子育てひろば」としての施設の開放、園内整備と関係機関との連携、子育て相談事業、子育て講座の開催や情報の提供などが挙げられます。

このような研究は、平成18年度から20年度にかけて、本学附属幼稚園で「親育てプログラム」を実施し（文部科学省の研究開発学校に指定）、親の育ちが幼児自身の変化につながることを明らかにしました。また、すこやかな子どもの育ちを促す親の在り方について具体的な方策を提案してきました。17年度から「子育てひろばの在り方」や「絵本を通した親子のかかわりの支援と援助」「食育を通した大学との連携子育て支援の試み」などの研究も積み重ねてきました。今年度からは、全国的なアンケート調査とモデル園の訪問調査、インタビューを実施し、現在の実態をより明確に整理しています。また、その調査分析から課題を明示し、幼稚園における地域子育て支援の在り方についてより実現の可能性の高い効果的な方法を提案したいと考えています。

安積貴美（あづみたかみ）
附属小学校栄養教諭

教育時事一問一答

近年、食育の重要性が唱えられています。兵庫教育大学の附属学校・園ではどのような取り組みをしていますか。

食事は、人が生きていくうえで欠かせないものです。子どもたちが食生活の基本を身に付け、自らの健康管理に生かすことができるようになってほしいとの思いから、附属学校・園では食育に取り組んでいます。

附属小・中学校では、毎日の給食を通して、バランスの取れた食べ方、食事のマナー、食べ物の大切さ、より良い食習慣などを伝えています。給食が児童生徒にとって生きた教材となるよう、地場産物を使用したり、郷土食や行事食を取り入れたりしています。また、附属小学校では特別活動の時間を利用して、児童たちにその日の給食に使った食材を提示しながら、「バランス良く食べることの大切さ」や「苦手な野菜をどうすれば好きになるか」を考えさせます。

附属幼稚園では、食育エプロンや紙芝居を使って「好き嫌いしないで何でも食べよう」「早寝・早起き・朝ご飯」などを教えています。

基本的な生活習慣は、3歳ごろまでにある程度は確立するといわれています。特に早い時期からの取り組みが大切だと考えています。

Question & Answer

教員の著書紹介

本書は「理論編」と「実践編」で構成しています。理論編では「新しい社会科改訂のねらい」「これからの社会科が育成すべき資質・能力（思考力・判断力・表現力の関係、事実判断力、推理能力、価値判断力、表現力）」「中学校社会科の主な改善事項」を論じています。実践編では、新学習指導要領における社会科授業の在り方について、「概念探究・価値分析型社会科」の授業構成理論に基づき、すぐに教育現場で実践できる理論と授業モデルを提案。理論編、実践編のそれぞれに新教材を使った授業アイデアを紹介しています。執筆陣はすべて本学大学院の修了生です。（米田）

中学校社会科「新教材」授業設計プラン
新旧比較で授業はこう変わる

編著：岩田一彦（社会・言語教育学系特任教授）、米田豊（社会・言語教育学系教授）　明治図書・平成21（2009）年刊

学事出版・平成21（2009）年刊　監修：梶田叡一（学長）　編著：中村哲（社会・言語教育学系教授）

学校を活性化する伝統・文化の教育

平成13（2001）年度から「『和文化の風』を学校に」を願い、「和文化教育」を提唱しています。その風が、ようやく学校教育の場に吹き始めています。23（2011）年度からは「伝統や文化に関する教育の充実」を重視する新学習指導要領が施行され、それに基づく教育課程と授業実践が全国の学校で具体化されます。この2冊は、先駆的に伝統と文化に関する教育に基づいて学校を活性化し、教育の充実を図った実践例を紹介しています。これらの教育実践を参考に全国の学校教育に和文化教育が育つことを期待しています。（中村）

伝統や文化に関する教育の充実 その方策と実践事例

編集：中村哲（社会・言語教育学系教授）　教育開発研究所・平成21（2009）年刊

Books

目の前で制作される姿は私たちにとって最大の講義です

前芝武史（まえしばたけし） 准教授
体育・芸術教育学系

大阪府生まれ。平成15（2003）年、筑波大学大学院博士課程芸術学研究科単位取得退学。17（2005）年、兵庫教育大学実技教育研究指導センター助教授に就任。大学院助教授を経て、19（2007）年に准教授となる。専門は彫刻（塑造実技、彫塑造形論、彫塑教育論）。研究作品は日展、白日会、日彫展を中心に発表。

黒いシャツに黒いスーツ、ひげ、サングラスが前芝武史先生のトレードマーク。さわやかな笑顔でしゃれたジョークを飛ばしながらも、真剣に学生と向き合ってくれるすてきな先生です。

先生は講義や指導の後、深夜まで自らの研究にいそしんでおられます。先生は、塑造による具象彫刻の制作を主軸に、彫刻領域の造形論と教育論に関する研究をされ、これらを一体化する試みを実践されています。この研究により、最近では日展で会友に推挙されたり、日彫展で優秀賞を受賞したりと、華々しい成果を挙げられています。

前芝先生の作品は、塊の組み立てが堅牢（けんろう）、かつ生命力にあふれているのが特徴で、ロダンや北村西望といった偉大な彫刻家の作品に通じる雰囲気が漂います。先生は制作過程において造形的な基礎・基本を確然と示しており、作品にはそれが端的に現れています。

そして、時に論理的とさえ思われるその制作を学生にも示してくださいます。ロダンは芸術講演を頼まれた時に「私のできる最上の講義はそこにあります。私の制作を見ればいいのです」という言葉を残していますが、先生も私たちの前で悠然と制作するという、最大の講義をしてくださいます。

常にどっしりと構え、悠々と急ぐ、振る舞いは学生たちにとってあこがれであり、真剣な学生に対しては真剣に向き合う姿は手本となります。まじめに勉学に取り組む覚悟のある学生は一度、前芝研究室を訪れてはいかがでしょうか。

⬆ワイルドな風ぼうも魅力です

⬇実習では的確なアドバイスをいただきます

山本将之（やまもとまさゆき）さん
学校教育学部
芸術系コース4年

Our Favorite Professor

先生から学生たちへ

昔、僕が大学院生のころでしたが、研究に没頭する毎日、数年来、全力を尽くしてもずっと分からなかったことが、あらゆる方面で一気に連鎖的に解決に向かったことがあります。その衝撃は本当に全身に稲妻が走り、一気に天にまで突き上げられるような感覚でした。彫刻の面白さはじっくりとしたものばかりと思っていましたが、こんな強烈なことが本当にあるのですね。以後も何度かそうしたことがあり、現在の研究の核が定まりました。

皆さんも自分の勉強を通して、そういったことが経験できたら本当に面白いですね。すべてが変わります。大学生活を思い切り充実させ、自分の可能性を最大限に伸ばしてください。

同窓生からの手紙

伊藤友佑（いとう ゆうすけ）さん

近畿大学附属小学校教諭

大阪府出身。平成19（2007）年3月、学校教育学部社会系コースを卒業し、私立近畿大学附属小学校に着任。今年度は3年生を担任している。

子ども一人一人のために全力を尽くしたい

小学校教員になって3年目。あっという間に月日が過ぎゆく中、子どもたちはぐんぐん成長していきます。教員の仕事は学級経営、授業づくり（教材研究など）、保護者とのかかわり、学校業務（行事など）、学年業務、事務などたくさんありますが、それらはすべて子どもたちの成長をサポートするためのものであり、つくづく素晴らしい職業だと実感しています。

小学校の6年間は、学習習慣や生活習慣を定着したり、礼儀や対人関係のやり取りを身に付けたりと、人格形成においてとても大切な時期です。だからこそ、私は一つ一つの行動や言動にいつも気を配っています。「われわれの仕事は自分のためでも保護者のためでもない。子ども一人一人のために全力を尽くすべきだ」と考えています。これからも、子どもたちの模範となる行動を取りながら、成長をサポートしていくことはもちろん、将来の社会を担うリーダーを育て、個々の特長をさらに伸ばしていきたいと強く願っています。

⬇子どもたちの視線を常に意識して、言動には気を配っています

Letters From OB

川野司（かわの つかさ）さん

九州女子短期大学養護教育科教授

福岡市出身。昭和58（1983）年に大学院修士課程教育経営コース修了後、福岡市立中学校教諭、福岡県と福岡市の教育委員会指導主事を経て、福岡市立中学校長を歴任。今年3月に定年退職し、九州女子短期大学養護教育科教授に就任。

⬇熱意と使命感にあふれる教員を育てたいです

誰からも尊敬される教員の育成を

現在、私は短大の教授として、養護教諭をめざす学生に夢を託す仕事をしています。その夢とは、学生が児童生徒や保護者から信頼され、尊敬される教員に成長していくことです。「教育は人なり」というように、教育の実を成すのは教員にかかっています。言い換えれば、教員には教育者としての使命感、人間の成長や発達についての深い理解、児童生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識と広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力が強く求められています。

現在の学校には解決すべき問題や課題が内在していますが、教育の成果は最終的には教師論に集約されます。新制度を導入し、立派な建物を構築し、教育内容をいかに改めようとも、それらを児童生徒の指導に生かすのは、教育に対する教員の生き方・在り方に関係しているからです。兵庫教育大学で学んでいる後輩の皆さん、夢は実現するものです。より崇（たか）きをめざし、自己を鍛えるため、貪欲（どんよく）に勉学に取り組んでください。期待しています。教員はやりがいのある素晴らしい仕事です。

▶大学院同窓会からのお知らせ

大学教員と大学院同窓生による共同研究を募集

このたび、兵庫教育大学都道府県連携推進本部では、同窓生と大学教員による「共同研究実施要項」を制定しました。学校現場の課題解決や大学の実践的な教育研究の進展に役立てることを目的に、同窓生の皆さんから共同研究を募集しています。採択された研究には、大学が経費として上限30万円（1件あたり）を負担します。

◎申請期限　10月30日㈮※応募方法などの詳細についてはHyokyo-net（http://www.hyokyo.net）をご覧ください。

問兵庫教育大学都道府県連携推進本部

TEL 0795・44・2406　FAX 0795・44・2009

スポットライト

母は修士論文、娘はクラブ活動 親子そろって充実の学生生活

鎌田美由紀（かまたみゆき）さん（左）
大学院修士課程
学校心理学コース2年

昭和37（1962）年、新温泉町（旧浜坂町）生まれ。但馬地域の小学校で養護教員を25年間務めた後、平成20（2008）年に入学。

鎌田美樹（かまたみき）さん
学校教育学部
学校心理系コース3年

美由紀さんの長女。昭和63（1988）年生まれ。平成19（2007）年に入学。女子フットボール部、ドラゴンボート部で活躍中。

➡附属図書館で修士論文の調べもの。平日は論文作成に追われ、週末は義母が待つ自宅に帰っています

⬆一目で母娘と分かる2人。「見ず知らずの娘の友人からあいさつされることもよくあります」と美由紀さん

⬅女子フットボール部とドラゴンボート部に所属（左から2人目）

母、鎌田美由紀さんと長女、美樹さん。兵庫教育大学の30年の歴史の中で、同時期に親子が学生として在籍したのは鎌田さん母娘が初めてです。2人は新温泉町久斗山の自宅を出て、加東キャンパスに隣接する寄宿舎で暮らしています。

「教員を志したのは高校3年生の時。子どもが大好きなのもありますが、教員の仕事と家事を両立していた母を間近で見ていたことも影響していると思います」と美樹さん。

養護教員一筋の美由紀さんは、娘が兵教大を受験するにあたり、「同じキャンパスに通うことになるかも」という予感があったとか。「発達障害が疑われる子どもが問題を起こすなどの出来事が続いていました。子どもとのかかわり方について、大学院で学び直したいと考えていたんです」

美由紀さんは6年前に夫と死別。大学院入学を決意したのは同居する義母の理解が大きかったと語ります。「現在、高3の次女が中学時代に不登校になり、あれこれ手を尽くしました。義母はその様子を見て、私が大学院でどんなことを学びたいのかを分かってくれたみたいで。受験を打ち明けた時も二つ返事でした」

昨春、美樹さんから1年遅れで入学。同居しているものの、美樹さんはクラブ活動やアルバイト、美由紀さんは修士論文の作成などで忙しく、すれ違いの日も多いそうです。それでも美樹さんは「母がそばにいてくれるのは心強い」と話します。

「研究を進めるうえでのアプローチの仕方をアドバイスしてくれたりと、母としてはもちろん、教員の先輩としても尊敬しています」

来年3月に修了する美由紀さんは、「大勢の子どもを相手にしながらも、一人一人の個性を理解できる教員になってほしい」と美樹さんにエールを送ります。「でも、新米教員にはたやすいことではないですね。あまりプレッシャーをかけてもいけませんし」とすかさずフォロー。母親の優しさが垣間見えました。

田上容子（たがみようこ）さん
学校教育学部
芸術系コース4年

和楽器の奥深さに驚き！津軽三味線を使って多彩な楽曲に挑戦中です

これに夢中！

⬆7月には姫路市書写の里・美術工芸館の開館15周年記念コンサートに邦楽部の仲間と出演しました（前列右端）

⬅今年2月の芸術系コースの定期演奏会では津軽三味線で「WEST SIDE STORY MEDLEY」を演奏（右端）

大学に入学するまで、和楽器は面白くないものと思っていました。しかし、邦楽部で箏を、授業で三味線を初めて演奏して、そのイメージは一変。今では両方とも大好きな楽器になりました。

一番の魅力は、箏は13本、三味線は3本の弦しかないのに、奏法によっていろいろな音楽を奏でられることです。「和楽器は古典曲」と決め付けていた私は、その事実を知った時、衝撃を受けました。和楽器の正統な曲はもちろん、現代曲にも挑戦してみたいという意欲がわき、津軽三味線でポップスやジャズなど多彩なジャンルに挑戦しています。

これからも練習を積み、演奏技術をもっと磨いて、多くの人に津軽三味線の魅力を伝えることが目標です。

お気に入りスポット

松﨑優子（まつざきゆうこ）さん
学校教育学部
総合学習系コース2年

自然派レストラン山椒亭

加東キャンパスや附属学校・園の前を通る学園道路沿いにある和食店です。〝自然派〟というだけあってメーン料理から小鉢まで、どれもに新鮮で安全な野菜を使っています。毎日のように学園道路を通る兵教生でも、山椒亭をスルーしてきた人はきっと多いはず。栄養不足気味な兵教生の皆さん、ぜひ味わってください。店の人もとても気さくです。

陳暁紅（ちんぎょうこう）さん（中国）
学校教育学部社会系コース特別聴講学生

昨年10月、日本語・日本文化研修留学生として入学しました。私は高校時代に起こった〝日本ブーム〟に大きな影響を受け、「絶対に一度は日本に行こう」と心に誓いました。日本語を2年間勉強し、その教科書で日本文化を知ったつもりでしたが、実際に触れてみると、想像と違っていたこともあります。1年間の留学で、日本語をしっかりと身に付け、日本文化をもっと吸収したいと思います。将来は日本人と一緒に仕事をしてみたいです。

留学生リレーメッセージ②

⬆今年2月の特別聴講学生発表会では先輩留学生の研究が勉強になりました

サッカーチーム「メイファーズ」に密着!

スクールカウンセラーも務める浅川潔司教授が立ち上げたサッカーチーム「メイファーズ」は発達障害などの児童生徒も仲間に加え彼らの支援に取り組んでいます。

発達障害や不登校の児童生徒とサッカーでコミュニケーション

←この日、練習に来たのは高校生4人と高校時代から参加している大学生1人。ほかに小中学生もいますが、教授ですら「誰でもウエルカムだから、正確な人数を把握していない」とか

←女子サッカー部の監督として輝かしい実績を残してきた浅川教授。「勝つためではなく、私自身が純粋にサッカーを楽しみたかったのが、メイファーズをつくった一番の理由かもしれません」

←ゴールを設置したり、白線を引いたり。全員で準備に取り掛かります

昨年6月に誕生したサッカーチーム「メイファーズ」は、浅川潔司教授（臨床・健康教育学系）のゼミ生である大学院生と学部生、留学生、そして発達障害や不登校の児童生徒らで構成されています。年齢も性別も国籍も異なるメンバーたちは、毎週木曜の午後6時半から練習に励んでいます。浅川教授は兵庫教育大学の学校教育研究センターの「学校なんでも相談室」や北播磨地域の中学、高校でカウンセラーを務めており、児童生徒は教授の誘いでチームに加わりました。

「発達障害と一口に言ってもアスペルガー症候群や注意欠陥多動性障害、学習障害などに分類されますが、不登校も含めて、彼らに総じて言えるのは、他者とコミュニケーションを取るのが苦手で、それによって自尊心が低下しているということです。メイファーズはサッカーを通して自尊心を取り戻す試みであり、ゼミ生には発達障害の児童生徒へのかかわり方を学んでもらいたいです」

チーム名は「仕方ないよ」を意味する中国語の「メイファーズ（没法子）」が由来。「チームのモットーは『勝たない』。勝利を追求するのではなく、一人一人がサッカーを心から楽しむことを大事にしています。負けても『メイファーズ』で片付きますから」

浅川教授いわく、初めて参加した児童生徒は競り合いに加わろうとせず、遠目に眺めているとか。しかし、日を追うにつれて、自らボールを奪いに行ったり、味方にパスを要求したりするようになるそうです。「パスを見ればチームになじんできたかどうかが分かります。仲間からパスをもらい、自分からもパスを出し、良いプレーには声をかけ合う。次第に、自分は仲間から必要とされている存在なんだと実感していきます」

貴重な教育実践資料がそろう「教材文化資料館」がオープン

10月1日、加東キャンパスに「教材文化資料館」が開館します（附属図書館に併設）。教育実践学の研究教育拠点をめざし、兵庫教育大学が手掛けてきた教育実践研究の成果をはじめ、歴史的価値の高い資料、全国から集めた教育現場の実践資料などを展示。教育現場で散逸しがちな実践資料のデータベース化も進めます。3月30日まで開館記念として「学校教育をめぐる教材と文化:歴史と現在」をテーマに、明治～第2次世界大戦後の教科書を中心に、戦中の師範学校の生活を描いた水彩画、著名な科学者に関する資料、幼年教育の教具などを展示し、学校教育をめぐる文化と歴史、教材や教育実践研究の変遷を紹介します。来年4月からは大学と教育現場が共同で開発した実践教材を発信。学校現場の課題解決をお手伝いします。

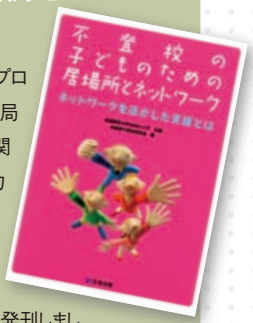
◎開館時間

平日8:30～22:00、土曜9:00～17:00、日曜・祝日13:00～17:00（ただし、大学休業期は異なります。臨時休館あり）

問 同館 TEL 0795・44・2362

News

不登校支援の実践例を一冊の本に



兵庫教育大学の不登校支援プロジェクト「NANAっくす」の事務局では、県内の不登校支援に関係する施設・団体の執筆協力も得て、「不登校の子どものための居場所とネットワーク～ネットワークを活かした支援とは～」（学事出版・1,890円）を発刊しました。本書は、保護者や児童生徒、教員、指導員などの視点から、適応指導教室や体験施設、フリースクール、親の会、不登校の生徒を積極的に受け入れている高校などの実践を紹介。出席扱い、山村留学、カウンセリング、ホームスクーリングなど、不登校支援の基本的な知識を紹介するコラムも充実しています。不登校支援の実践を横断的に取り上げた本は少なく、本書の発刊には、さまざまな団体・施設によるネットワーク構築に向けた契機になってほしいという願いも込めています。

Ureshino Scramble

メイファーズはいつでもウエルカムです

メイファーズは発達障害や不登校などの児童生徒の加入を常時、受け付けています（要相談）。毎週木曜の活動（基本練習、紅白戦）のほか、年に数回は神戸女子大学や附属中学校男子サッカー部などと交流試合もします。活動に協力してくれる学生（サポーター）も募集中です。

◎主な対象　発達障害や不登校、学校適応に問題のある児童生徒

◎日時　毎週木曜18:30～20:00（学校の夏・冬・春休み期間中は不定期）

◎場所　兵庫教育大学サッカー場（陸上競技場のトラック内）

問 浅川潔司研究室 TEL 0795・44・2117

←ユニフォームは、チームの取り組みに共感した小野市の企業から提供されました

練習は大学院生の西村淳さん（学校心理学コース2年）の号令でウオーミングアップからスタート。現職の小学校教員である西村さんは「今までも発達障害の児童とかかわる機会はありましたが、立場が変われば接し方も変わります。ここでは仲間として対等に付き合っています」と語ります。

シュート練習の後は紅白戦。「息子は木曜日が来るのを楽しみにしています」と話すのは、A君の母親です。広汎性発達障害を抱える彼は昨春に高校入学後、不登校になりました。「同級生との付き合いでは構えてしまう部分があるようですが、幅広い年齢層が集うメイファーズにはいつの間にか溶け込んでいました。自分の居場所を見つけられたのではないでしょうか」

紅白戦を終えたメンバーたちは代わる代わるトンボを手にグラウンドをならします。「勝たない」をモットーとするメイファーズ。和気あいあいとサッカーを楽しむ姿は、勝利よりも価値のあるものの存在に気づかせてくれます。

◎平成22年度大学院学生募集

☆学校教育研究科

＜後期選抜試験＞

修士課程

◎募集人員70人

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
学校心理学コース	昼間クラス	7人
	夜間クラス	5人
臨床心理学コース	夜間クラス	15人
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース		5人
特別支援教育コーディネーターコース		3人
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人

専門職学位課程（教職大学院）

◎募集人員48人

▶教育実践高度化専攻		
学校経営コース	昼間クラス	12人
	夜間クラス	若干人
授業実践リーダーコース	昼間クラス	16人
	夜間クラス	若干人
心の教育実践コース 道徳教育、進路指導、 生徒指導・教育相談、学級経営など	昼間クラス	15人
	夜間クラス	若干人
小学校教員養成特別コース		5人

◎出願期間　10月9日㊎～16日㊎（消印有効）
◎試験日　11月14日㊏（筆記・口述）
◎合格者の発表　12月4日㊎10:00
※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト（神戸市中央区）で開講します（昼間と夜間を区別していないコースは昼間クラスのみです）。
㊐入試課　TEL 0795・44・2067

◎平成22年度園児・児童・生徒募集

☆附属幼稚園

◎募集人員
3年保育（3歳児）40人、2年保育（4歳児）20人
※22（2010）年4月1日時点での年齢
◎出願期間　10月26日㊊～30日㊎
◎選考結果発表、抽選日　11月14日㊏
㊐附属小学校事務室 TEL 0795・40・2218

☆附属小学校・中学校

◎公示日　10月30日㊎
㊐附属小学校事務室 TEL 0795・40・2218
㊐附属中学校事務室 TEL 0795・40・2224

◎教育実践学フォーラム

～学校教育の諸問題と可能性を求めて～

最近、話題の「脳科学」にスポットを当て、第一線で活躍している研究者が「教育ー脳科学からのアプローチー」をテーマに、研究内容を語ります。参加無料（要申し込み）。
◎日時　10月24日㊏14:30～16:00
（受付開始14:00）
◎ゲストスピーカー　渡辺恭良さん（理化学研究所神戸研究所分子イメージング科学研究センター・センター長、大阪市立大学大学院医学研究科教授）
◎場所　キャンパス・イノベーションセンター大阪
◎対象　研究者、大学院生、教員など
◎申込方法　メールまたはファクスで受け付けます。標題を「フォーラム申し込み」とし、氏名、年齢、職業、連絡先（電話・ファクス番号、メールアドレス）を明記してください。
㊐㊥連合大学院事務室
TEL 0795・44・2068　FAX 0795・44・2269
✉ office-rendai-r@hyogo-u.ac.jp
http://www.program.jgssse.jp/event/2009-3

◎附属中学校研究発表会

研究テーマ「『学び合い、高め合う授業づくり』（3年次）ーコミュニケーションによる思考を育む授業のあり方ー」
◎内容　基調提案、公開授業、研究授業、授業研究会、講演会
◎開催日　10月23日㊎
◎場所　附属中学校
㊐附属中学校（担当:高松）
TEL 0795・40・2222　FAX 0795・40・2225
http://www.school.hyogo-u.ac.jp/middle/middle.html

◎附属幼稚園研究発表会

研究テーマ「保育における『つながり』を考える－自然とともにある生活を通して－」
◎内容　保育公開、研究協議、講演会
◎日時　10月31日㊏、1月27日㊌9:00～16:00
◎場所　附属幼稚園
㊐附属幼稚園（担当：小林）
TEL 0795・40・2227　FAX 0795・40・2228
✉ kinder@hyogo-u.ac.jp
http://www.school.hyogo-u.ac.jp/kinder

◎第28回大学祭（嬉望祭）

今年のテーマは「DoReMe（ドレミ）」。〝エコ〟を目的とした「Do=する」「Re=リサイクル」「Me=自分」の略称です。定番の模擬店やクラブの発表会のほか、古本市やフリーマーケットも開催します。
◎開催日　11月21日㊏、22日㊐
◎場所　加東キャンパス
㊐学生支援課
TEL 0795・44・2050　FAX 0795・44・2049
✉ office-gakusei-t@hyogo-u.ac.jp

◎日本教職大学院協会創設記念シンポジウム

教職大学院の成果と課題
ー更なる発展を目指してー

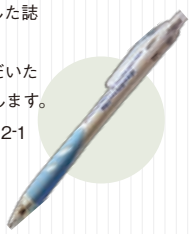
各方面の学識経験者が、教職大学院の開設から今日までの取り組みを振り返り、現状の課題とこれからの方策について議論します。参加無料（要申し込み）。
◎日時　12月13日㊐13:30～
◎場所　学士会館（東京都千代田区）
◎申込方法　メールまたはファクスで受け付けます。標題を「シンポジウム参加希望」とし、氏名、所属、連絡先（住所、電話・ファクス番号、メールアドレス）を明記してください。
㊐㊥日本教職大学院協会事務局（兵庫教育大学総務課内）
TEL 0795・44・2315　FAX 0795・44・2009
✉ office-japte@hyogo-u.ac.jp

編集後記

●秋草から聴こえる虫たちの美音に耳を傾けながら、月の出を待つ季節になりました。「ひさかたのつきのあなたに　すむひとは　つねにさやけき　つきをながめむ」（良寛）。「さやけき」情ゆえに児戯の世界の趣を知る良寛は、まことに教えびとだったのでしょう。（な）
●社会の大きなうねりの中、変わりゆくものも多くあります。しかし、教育の重要性と教育のメッカとしての兵庫教育大学が果たすべき大きな使命は変わることはありません。これからも「教育子午線」は、本学の魅力と最新情報を発信していきます。バックナンバーは本学ホームページhttp://www.hyogo-u.ac.jpでご覧ください。（に）

◎あなたの声をお聞かせください

「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりをめざしています。
はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方には、オリジナル・シャープペンシルを進呈します。



●あて先：〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務室
TEL 0795・44・2334　FAX 0795・44・2009
✉ office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

教育子午線 Kyoiku-Shigosen October, 2009 vol.21
第21号　2009年10月発行　発行／兵庫教育大学 大学広報室　http://www.hyogo-u.ac.jp
編集協力／㈱神戸新聞総合印刷

この印刷物は再生紙を使用しています。